

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292100039		
法人名	社会福祉法人 愛児福祉会		
事業所名	グループホーム三愛園		
所在地	青森県西津軽郡深浦町大字関字柝沢80-9		
自己評価作成日	平成30年11月30日	評価結果市町村受理日	平成31年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本人の持っている能力・願望・好みをニーズとして捉え、個々の生活ニーズを基にしたケアプランの作成を行い、快適な生活ができるように支援する。
 支援する職員もスキルアップ(専門性を高めること)を目指し、内部においても福祉理念について学ぶ研修を行うことにより、利用者の最新の情報も共有して介護する取り組みを実践する。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは日本海に面した自然豊かな場所に立地しており、近くには漁港や診療所、駐在所があるほか、駅にも近く、地域の中のホームとして認識されている。
 法人は認定こども園やデイサービス、訪問介護事業所等、広く経営しており、「愛望愛敬」という理念のもと、地域密着型サービスとしての役割を担っているホームである。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成31年1月24日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛望愛敬」が法人の基本理念であり、赤ちゃんからお年寄りまで、心と心のふれあいを大切に運営している。	「愛望愛敬」という法人設立時からの理念を掲げ、ホーム内に掲示しているほか、広報誌にも掲載し、広く周知を図っている。職員は日々、理念を反映させたサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者や地域の方々に理念が浸透するよう、毎月、経営者・職員での打合せ(職員会議)を実施しており、理念を意識して良い接遇ができるよう、周知を図っている。	近隣住民から山菜や魚をいただいたり、小・中学校の運動会への招待、踊りの訪問、診療所受診後に友人が立ち寄る等、日常的に地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場や地域連絡会議において、認知症のケアについて、個々の事業所だけでなく、地域全体で見守る姿勢を大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の老人クラブ会長や民生児童委員が委員であり、会議の場で評価についても説明を行い、理解をいただいている。また、地域の特徴を活かした活動を行うよう、委員の助言を大切にするように心がけている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、予め議案書を通知して、委員から意見が出やすいように工夫している。会議ではホームの行事や研修、取り組み状況等を報告し、委員から出された意見や助言等を基に、サービスの向上に役立てていくように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者が実地指導を含めて数回訪問してくださっている。また、メール等を利用して事務連絡は行っている。運営推進会議には毎回、町職員が参加している。	運営推進会議には毎回、町職員の参加があり、互いに情報を交換しているほか、メールで研修会の案内を連絡する等、日頃から協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同意書は用意しているが、基本として身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。実際に今まで行ったことはない。	身体拘束に関する指針やマニュアルを作成し、委員会も定期的を開催しており、職員は身体拘束の内容や弊害について理解し、身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアを行っている。また、やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、家族への同意及び経過記録の様式を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については重要であると考えており、外部・内部研修を実施し、未然に防ぐように取り組んでいる。地域包括支援センターとの連携を重要と考え、虐待を見過ごすことがないように、地域ぐるみで運動している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護や成年後見制度について研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	紹介された時は訪問し、本人と家族が不安を抱くことのないように十分に説明し、ホームの見学に来てくださるように勧めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来た時に意見を出していただけるように依頼している。重要事項説明書や広報には外部の相談先を明示している。	日頃から利用者や家族とのコミュニケーションを大切に、気軽に意見や苦情、要望等を職員に話せる関係づくりをしている。また、利用者や家族が運営推進会議の委員となっており、外部に意見や要望等を話せる機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場でホームの運営や行事予定、利用者の状況等、様々な意見が出され、それらの中には提案等もあり、できる限り反映するようにしている。	職員会議で利用者の受け入れや業務改善策等を話し合い、職員の意見を聞く機会を設けており、利用者に不評な食材の変更を行う等、職員の意見をホームの運営に反映させる仕組みを整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員にとってのスーパーバイザーであり、管理者にとっては理事長がスーパーバイザーである。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望を聞きながら、年1回は外部の研修を受講するように努力している。また、資格取得希望者には配慮して、目標達成を応援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームと交流している。情報交換を地域ケア会議等を通して行っている。日本認知症グループホーム協会に入会しており、青森県支部主催も含めて研修会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や担当ケアマネージャー等の情報を取り入れて、職員の意見を聞き、十分に情報を活かしたアセスメントを行い、信頼関係を重視した関係づくりを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望を取り入れて、利用者と同じように、信頼関係を重視した関係づくりを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活のことは利用者や家族と十分に相談した上で、医療や介護の支援をするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は「介護を受ける人」ではなく、「主体的に生活する人」として、また、職員は「介護の提供者」ではなく、「生活のパートナー」として意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にはたくさん訪問していただけるように声をかけている。利用者を支援するために、場面場面で家族に相談して進めるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が安心してサービス利用できるように、事前に利用者や家族に聞き取りをしている。医療機関や理・美容院等も馴染みの所へ行けるように配慮している。職員はいつでも利用者の視点で家族と話し合い、調整している。	入居時のアセスメントや職員の記録、利用者との日々のコミュニケーションの中から得た情報を職員間で共有し、関わりのある人達との交流継続や思い出の場所への外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いをよく理解し合えるように関わっているが、性格や価値観の違い等から摩擦が起きることもあり、職員は非審判的態度で傾聴・受容・共感して支えるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院したり、施設入所した方がいるが、便り等を持って訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴・外出・食事等、いろいろな場面で決して急がせることはせず、利用者の希望をよく聞き、利用者のペースで支援することを心がけている。	利用者とのコミュニケーションを第一に考えており、職員を担当制にして、日々のケアの中から思いや意向を把握している。また、意向を十分に把握できない場合は家族から情報収集を行い、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日常の会話等から情報を得て、支援に役立てるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者は皆で食堂で寛いでいる。個室も環境が良く、外の景色がよく見えて居心地良く、自由に思い思いの物を持って来ており、不自由さはない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成し、その基となるアセスメントも行っている。内容が具体的なものなので、職員、家族等の連携を取り、その時に合った介護計画を作成している。	利用者や家族の意見や要望を確認し、職員会議で職員の気づきや意見を基に、利用者の心身状態を考慮した具体的な介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、評価しているほか、家族の意向や利用者の心身状態等に変化が見られた場合は、その都度再アセスメントを行い、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った視点で記録している。また、計画には無いような事も起きるので、職員間で連携しながら実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じて、通院の送迎や理・美容院への外出支援等、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域を散歩したり、隣接の子ども園やデイサービスとの交流を行っている。利用者のプライバシーに配慮しつつ、認知症を理解していただけるように、地域の方々への啓発活動も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関を継続して受診できるように支援している。受診後は家族に報告しており、情報の共有を図っている。	入居時にこれまでの受療状況を確認し、希望する医療機関を受診できるように支援している。受診結果は家族の面会時に報告しているほか、変化が見られた場合は電話で報告し、情報の共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置されていないため、法人内の他の事業所の看護師に相談している。また、診療所の看護師より具体的な助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の地域連携室等と連携し、入退院時の情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	近隣病院でも医師不足は深刻な問題であり、日頃の連携はできているが、ホームでのターミナルケアに向けた連携やマニュアル作成までにはまだ至っていない。しかしながら、管理者と利用者、家族とは話し合いを行っている。	ホームの方針として看取り介護は行っていないことを入居時に説明し、重度化した場合や緊急時には家族や医療機関、ホーム間で協議をして方向性を決定することとしており、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の個別の状態に応じて備えている。緊急時は主治医と家族に連絡し、必要に応じて救急車を要請することを話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時は町の指定する場所に避難する。夜間は職員1名なので、近隣に住む職員が駆けつける体制である。11月に夜間の火災を想定した総合訓練を実施した。	地域住民の協力を得て、年2回、利用者と職員と一緒に避難訓練を実施している。また、津波等の災害対策マニュアルを作成し、避難場所まで安全に避難できるよう、近隣住民や消防署へ協力を働きかけているほか、災害発生時に備え、飲料水や食料品、暖房器具を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に気を配っている。特に言葉遣いについては管理者から注意することもある。各室の表札については利用者にとっては有効であるが、訪問した方や地域の人等に対しては十分に配慮している。	管理者は職員に対し、利用者を受容的態度で傾聴・対応するように指導しており、職員会議で振り返りや改善に向けた取り組みを行っている。職員は利用者のプライバシーや羞恥心に十分に配慮しながら、日々の業務を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの思いを把握し、職員間の情報共有を大切にして、利用者本位で生活できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の訴えを最優先して接するように努めている。一人ひとりに合ったペースで暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴や習慣、希望、利用者の趣味に合わせて、おしゃれや楽しみ事を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りから調理まで、利用者の意見を聞きながら取り組んでいる。食事は会話しながら良い雰囲気になるように努力している。	調理師資格を持っている職員の意見を参考に献立を作成し、利用者の好みや禁忌を考慮しながら調理している。また、利用者の意思等に応じて、山菜の皮むき等の食材の下拵えや食事の準備等を一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に調理師がおり、利用者一人ひとりについて栄養バランスに配慮して、それぞれに合った支援ができている。水分は1500CCを目安としており、摂取量に関しては必要がある方は個人ファイルに記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各個室に洗面所があり、歯磨きや入れ歯清掃については自分でできる利用者は、毎食後、声がけによって行っている。困難な方は職員が一緒に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の自立は課題の一つである。利用者は排泄を失敗することもあるが、さりげなく、根気強く支援している。	利用者の排泄状況をチェック表に記録し、パターンに応じてトイレ誘導を行っているほか、利用者の羞恥心やプライバシーに十分に配慮して、尿意の確認や失禁時の対応を行っている。また、排泄の自立について、職員会議で話し合う時間を設けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬を服用している方もいるが、便秘気味の方には水分と食物繊維を多く含んだ食品をたくさん摂っていただく声がけをし、適度な運動をしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	週2回、1対1で介助して入浴していただいている。回数や入浴時間、介助方法について不満が出たことはない。現在は入浴を嫌がる利用者はいない。	利用者一人ひとりの入浴習慣や意向を取り入れ、週2回、入浴支援をしている。また、車椅子の利用者には身体的負担を考慮して、デイサービスの機械浴を使用し、安全に入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣に合わせて安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自分で管理できる方はいない。職員がその都度手渡しをして、服薬を見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や習慣、希望、利用者の力量に合わせて、何が楽しみ事になり得るかを把握しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等、積極的に外出の機会を作り、利用者に外出の喜びや楽しさを提供している。	利用者のその日の気分や体調に合わせて、ホームの敷地内や近隣の住宅地を散歩している。外出行事には利用者の希望を取り入れ、車椅子車両を使用する等して、利用者の身体状況にも配慮して支援を行っているほか、外出行事の内容により、家族にも参加協力を働きかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時等、一定金額を所持していただき、自由に使っていた。多くの方は職員にいろいろと聞きながら買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームから家族に電話する時はプライバシーを尊重しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気大切にしている。窓からは診療所や子ども園、小学校等が見え、人々の日常生活が感じられる。	ホーム内は天井から柔らかな日差しが入り込み、全体的に明るく、開放的な雰囲気である。また、エアコンや加湿器の使用により、適切な温・湿度となるように調整しており、利用者が快適に過ごせる環境づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	木材をふんだんに使い、家庭的な雰囲気である。周囲の風景は素晴らしく、岩木山も見え、いつでも季節を感じながら生活している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた調度品等を持ち込めるように働きかけており、テレビや衣装ケース等を持ち込んでいる。位牌や行事の写真、手作りの作品等を飾っている。	入居時に愛用品や馴染みの物の持ち込みを働きかけており、茶碗や箸のほか、家族写真等の持ち込みがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自火報設備やスプリンクラー設備があるが、いざという時は皆の協力が重要であり、定期的な避難訓練も行っている。		